

なぜ、宮沢賢治は「やまなし」という題名をつけたのだろうか？
-VR空間での表現・共有-

「やまなし」



第6学年 国語科 学習指導案

1 前時までの学習を振り返る。

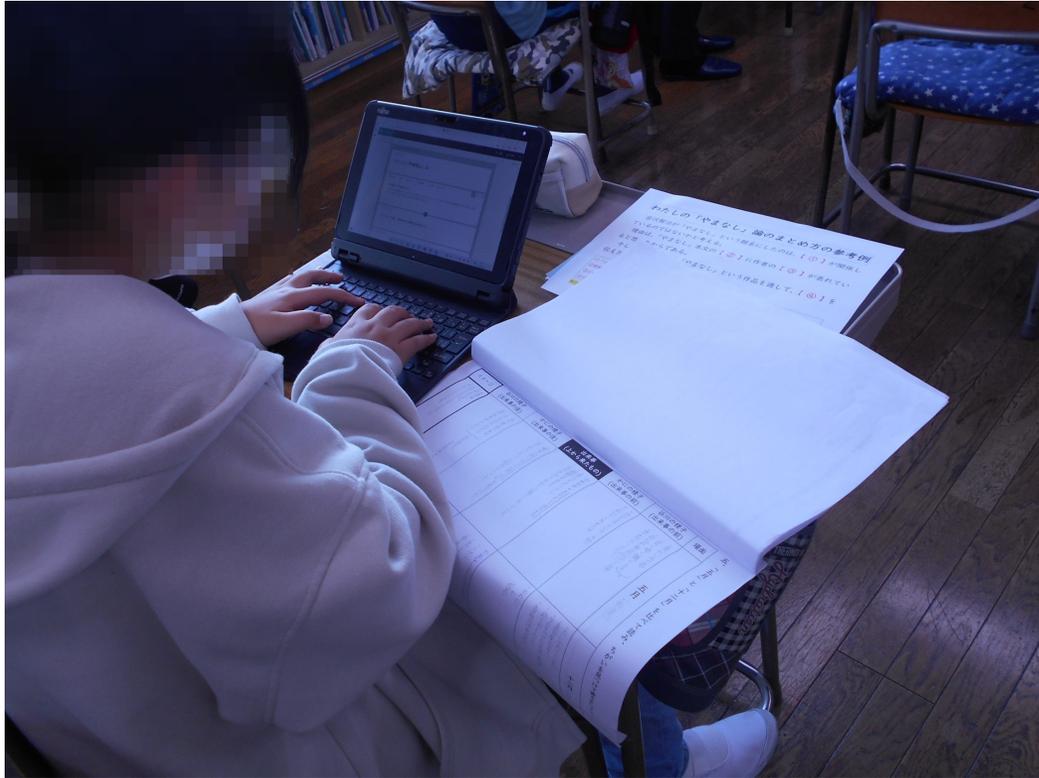
既習を想起させ、二つの場面の対比関係や宮沢賢治の生い立ちなどに着目させ、課題提示に繋げる。

イメージ	谷川の様子 (出来事の後)	かにの様子 (出来事の後)	出来事 (上から来たもの)	かにの様子 (出来事の前)	谷川の様子 (出来事の前)	場面
<p>かわせみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 命をうばう 自然の厳しさやおそろしさ 「死」をイメージさせる <p>賢治の現実?</p>	<ul style="list-style-type: none"> 光の黄金のあみ 白いかばの花びら 光のあみはゆらゆら <p>←</p> <p>底から水面を見上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> かわせみに食べられ、命を奪われた。 「魚はこわい所へ行った」 	<p>かわせみ ↓ 生命をうばうもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 青光り ぎらぎら 鉄砲だまのよう 先がコンパスのように黒くどがっている 居すくまる。(その場から動けない) 	<p>幼い ←</p>	<ul style="list-style-type: none"> 青白い水の底 青く暗く鋼のよう 日光の黄金 太陽の光 魚 ↓ 行ったり来たり 生き物が活発 <p>まだ暗い</p>	五月(初夏)
<p>やまなし</p> <ul style="list-style-type: none"> 命を与える 自然のめぐみ 「生」をイメージさせる。 <p>賢治の理想?</p>	<ul style="list-style-type: none"> いいにおいでいっぱい 青白いほのお 月光の虹がもかもか 金剛石の粉 <p>←</p> <p>底から水面を見上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> やまなしの後を追う 「ひとりてにいいお酒ができる」 やまなしが恵みを与えてくれる。 	<p>やまなし ↓ 生命を与えるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> トブ 黒い丸い大きなもの 黄金のぶちが光り 	<p>成長した ←</p>	<ul style="list-style-type: none"> 白いやわらかな丸石 金雲母のかけら ラムネのびんの月光 月の光 辺りはしんとして 生き物が活発ではない <p>あわ比べ。</p>	十二月(初冬)

時期	賢治の言動や賢治に関わる出来事
昭和八年 (1933)	<ul style="list-style-type: none"> 三十七才 急性肺炎。激しく血を吐く。九月二十一日 午後一時三十分死亡 「ああ、いい気持ちだ。ああ、いい気持ちだ。」
昭和六年 (1931)	<ul style="list-style-type: none"> 三十五才 旅先で発熱。遺書を書くほどの衰弱。 「風の又三郎」「雨ニモマケズ」
大正十五年 (1926)	<ul style="list-style-type: none"> 三十才 農学校をやめる。 「羅須地人協会」を作る。農業技術を教える。 東北一帯を飛び回る。 石灰肥料会社共同経営
大正十二年 (1923)	<ul style="list-style-type: none"> やさしさを人々に育ててもらうために詩や童話を書く。 人間も動物も互いに心が通い合うような世界が賢治の夢。 「セロ弾きのゴーシュ」「やまなし」「銀河鉄道の夜」↓本は売れずひどい評判
大正十一年 (1922)	<ul style="list-style-type: none"> 妹のトシがなくなる。
大正十年 (1921)	<ul style="list-style-type: none"> 二十五才 花巻で農学校の先生になる。 「いねの心がわかる人間になれ」 苦しい農作業の中に楽しさを見つめる。未来に希望をもつ。 【賢治の理想】「どんぐりと山猫」「注文の多い料理店」
大正四年 (1914)	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡高校農林学校入学
明治四十二年 (1909)	<ul style="list-style-type: none"> 中学校入学 自然災害 翌年洪水 「人々が安心して田畑を耕せるようにできないものか。一生をささげたい。」
明治四十一年 (1908)	<ul style="list-style-type: none"> 六年生 石集めが好き「石こ賢さん」と呼ばれる。 133.9cm 29kg
明治二十九年 (1896)	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県花巻に宮沢賢治生まれる。 六月 三陸大津波 七月 大洪水 八月 陸羽大地震 九月 大雨洪水 伝染病の流行などで、五万人以上の人がなくなる。

2 宮沢賢治が作品に「やまなし」という題名を付けた理由を考える。

Swayを活用し、宮沢賢治が作品に「やまなし」という題名を付けた理由を、「やまなし」や「イーハトーヴの夢」を基に考え、理由を明らかにして文章にまとめる。



「やまなし」という題名を付けた理由を考え、Swayを活用してまとめる。

わたしの「やまなし」論!

【「やまなし」から考えたこと】

- 「五月」は、賢治の現実で「十二月」は、賢治の理想だと思う。

【「イーハトーヴの夢」、賢治の生き方や考え方から考えたこと】

○十二月に出てきた、賢治の理想の方に出てきた「やまなし」を題名にしているから、賢治の現実はとても厳しかったと考える。

- 自分の気持ちを本に表していると考え。

【結論】

宮沢賢治が「やまなし」という題名にしたのは、賢治の現実が厳しかったことが関係しているのではないかと考える。

理由は、「やまなし」本文の「五月」と「十二月」の比較に作者の現実と理想が表されていると思ったからである。

そして、宮沢賢治は「やまなし」という作品を通して、自分の現実と理想を伝えたかったのではないかと考える。

3 友達と考えを共有し合い、自分の考えを広げる。

SharePointを活用し、VR展示会場で友達と考え共有し合う。



3 友達と考えを共有し合い、自分の考えを広げる。

Formsを活用し、友達の考えに対して、共感した自分の考えを伝える。

【結論】

宮沢賢治が「やまなし」という題名にしたのは、賢治の現実が厳しかったことが関係しているのではないかと考える。

理由は、「やまなし」本文の「五月」と「十二月」の比較に作者の現実と理想が表されていると思ったからである。

そして、宮沢賢治は「やまなし」という作品を通して、自分の現実と理想を伝えなかったのではないかと考える。

下のリンクから、共感したことを伝えよう！

共感とは・・・

他人の考え、主張、感情を、自分もその通りだと感じること。

<https://forms.office.com/r/ND356D1LLD>



右のフォームにアクセスし、友達に共感したことを伝える。

友達に共感したことを伝えよう

共感とは・・・

- 他人の考え、主張、感情を、自分もその通りだと感じること。
- 自分の考えと似ていて、納得したこと。
- 自分とは違う考えだが、納得する考えだったこと。 など

こんにちは、このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

1. 伝えたい相手は誰ですか？

答えの選択

2. 共感度（5段階）



3. 「その通りだな！」と感じたこと

回答を入力してください

送信

5 本時の学習を振り返る。

友達の考えや自分の考えを基に学習のまとめを行い、次時へと繋げる。

今日の学習の振り返り

なぜ、宮沢賢治が「やまなし」という題名にしたのでしょうか？
自分の考えや共感した友達の考えを参考にして、下の【 】の中に当てはまる言葉を考えましょう。

【最終結論】

宮沢賢治が「やまなし」という題名にした理由は、【①】が関係しており、やまなしの作品を通して【②】を伝えたかったのではないかと考えた。

こんにちは、このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

* 必須

1. 【①】*

回答を入力してください

2. 【②】*

回答を入力してください

送信

